



令和7年5月
第244号

かけはし

ケアハウスあじさい園



URL: <http://www.ajisaaien.or.jp/>

「一人に一台一生寄り添うスマートロボット」

国のムーブメント型研究開発事業として、2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動、人と共生するロボットを実現する、という目標があります。少子高齢化の進行と、医療・介護の現場での人手不足などから、一人一人に寄り添い、一台でさまざまな作業をこなすロボットの実現です。現在のロボットは複数のタスクをこなすことはできず、人との接触に適した柔らかさ・繊細さとパワーの両立も果たされていません。人工知能（AI）をロボットの制御に用いるには、実世界の物事とデータの関連性をいかに持たせるかが課題です。倫理的・法的・社会的課題や国際的視点から、ロボットと人の共生のあるべき姿を探る必要があります。

2050年に、ビジネス、家事、介護、看護、治療を自律的に実行可能なスマートロボット（アイレック）を実現することを目指して、開発されています。具体的には、ビジネスにおける接客、家事タスクとして調理・洗濯・清掃など、介護タスクとして移乗支援・清拭・食事介助など、看護タスクとして検査・案内・点滴交換など、診断・治療補助タスクとして自動検査・手術支援などです。身体と制御システムでは、人と接触可能な柔らかい身体構造を備え、自己修復機能を有するスマートロボット。知能システムについては、AIの理解を深め、ロボットが人の感覚運動を学習して高難度タスクを実現し、人との情動コミュニケーションがとれること。福祉・医療への展開技術の構築として、治療・看護・介護支援の自動化と、この分野のタスクに順応するロボットハンドの開発です。

ロボットの革新・AIの革新・社会実装・社会ニーズの分析、の各専門家が結集してこのプロジェクト（ロボットの機械的柔軟性・AIによる環境適応性・実空間での柔軟な身体知・相互誘導型コミュニケーション知能）を成功させようとしています。2050年には必ずこまで行こう！という、未来のために、難易度の高い目標を掲げ、研究室の中で必死に取り組んでおられる頭脳集団（研究者）に心から敬意を表し、エールを送り、成功を祈ります。

5月4日（日） いどばた会（端午の節句）

5月行事予定

- 4(日) いどばた会
(端午の節句)
- 13(火) 訪問理美容
- 22(木) 食事会

